

門の外へ目を向けて

環境ボランティアってどんなもの？と考えてしまおうと思います。しかし、そんなに大げさなことではありません。何も遠くまで出かけていく必要はありません。例えば、庭にたくさん花を咲かせている人がいるとします、この場合庭だけでなく

『ポイ』捨てから、拾う立場へ

車の窓から空き缶を「ポイ」食べ終わった弁当を「ポイ」誰かが捨ててあるから、自分だけじゃないからといって山中にゴミを「ポイ」。

このゴミは誰が片付けるのでしょうか、捨てる人は自分の回りがきれいになります、そのゴミを拾った片付けたりしている人がいるのです。山のように不法投棄され

地域一体となって『捨てさせない』

「捨てない」「捨てさせない」意識づくりと運動を、地域が一体となって推進することが不法投棄を防ぎます。自然はみんなの財産であり、美しい自然を子孫に

ているゴミを片付けるのは尚大変です。色々な物が混じっていますから、環境衛生組合で処分するには分別をしなければなりません、捨てられているゴミが腐っていたりして決してきれいな仕事ではありません。一度拾う立場になると捨てることの愚かさがわかります。拾う立場になってゴミ問題を考えることが大切なことです。

残すことは、現在に生きる私たちの努めでもあります。みんなで考え、みんなで行ける地域一体となった取り組みをお願いします。



地域一体となった取り組み



関区婦人会のみなさん

海岸入口に花植え 関婦人会

捨てられない環境作り

フォーラムでの町長の基調講演で「ゴミの捨てられない環境作りが必要」との話聞いた婦人会の方が発起人となり、ゴミが捨てられ困っている木戸浜海岸入口に花を植えました。雑草をきれいにしての作業となりました。

日頃からリサイクル活動に 積極的に取り組みたい

光中生徒会長 花澤 清隆



4月17日のアースデイはたくさんの方々が協力してくださり、その成果として、中学校の東玄関におさまりきれないほどの古紙が集まりました。今までで一番多く集まり、予想を上回る量だったため、中学校での当番になった生徒は大変でした。今、環境破壊は、世界的な問題になっています。毎日のように樹木が切り倒され、地球はどんどん砂漠化しています。それをくい止めるため、平成2年から、その年に講師として来ていたジヨナサン先生の呼びかけで、この活動が始まりました。私達は日頃、何気なく紙を使っています、その一枚一枚が、樹木から作られているというのを忘れてはなりません。これを機会に、日頃から、リサイクル活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



▲ばくも協力、環境を守る一員です。